

千葉陸協だより



発行：千葉陸上競技協会総務委員会広報部 2022年3月18日発行

第18号

朝比奈正行前名誉会長を偲んで

副会長 長谷川 良介

長年にわたり千葉陸上競技協会並びに千葉県陸上競技の発展に多大なる御尽力をいただきました朝比奈正行前名誉会長（元会長）が、令和3年（2021年）11月15日に御逝去されました。朝比奈元会長は、昭和31年から同32年まで本協会理事長を、同42年から平成3年12月まで副会長を、同3年12月から同16年まで会長の要職を歴任され、その御功績から同17年から同22年までは名誉会長として本協会の運営をご指導いただきました。本県出身の故青木半治日本陸上競技連盟終身名誉会長とは早稲田大学の同窓生であることから、千葉県、千葉県体育協会（現スポーツ協会）等との協力体制の構築に努め、青木半治杯国際千葉駅伝の創設に大きく貢献されました。同大会は県民から愛される大会として26回の長きにわたり開催され、元会長の大きな御功績の一つとなっております。謹んで御冥福をお祈り申し上げるとともに、そのお人柄などを御紹介します。



朝比奈正行元会長は、大正7年3月29日千葉県山武郡松尾町に朝比奈家の四男として誕生されました。松尾町八田小学校、県立成東中学校で学び早稲田大学へ進学、昭和20年12月に同大を卒業されました。早稲田大学在学中、関東インカレ80年史によれば昭和16（1941）年6月明治神宮外苑競技場で開催された第23回大会ではハンマー投42m71の記録で第4位に、翌17（1942）年の第24回大会では同種目41m10の記録で第2位入賞を果たしています。また、千葉県体育協会80年史には、次の抜粋のように第2次世界大戦後の陸上競技の復活の状況と元会長の御活躍が記されています。「昭和21年には早速陸上競技は復活し関東試練会（現在の記録会）東西対抗が大宮で開催された。そして秋には京都で日本陸上競技選手権を兼ねて第1回の国民体育大会が開催された。この時、ハンマー投で堂々2位に入賞し、千葉県民に戦後の復興の勇気を与えたのが（元会長の）朝比奈正行であった。（元会長は）昭和26年10月広島第6回国民体育大会に男子陸上部監督として参加した。昭和31年4月には千葉県陸上競技協会（現一般財団法人千葉陸上競技協会）理事長に就任した、昭和32年11月に開催された第7回青森—東京14都県対抗駅伝競走には千葉県代表の連絡員として参加した。昭和39（1964）年東京オリンピック陸上競技には本県から競技役員として、朝比奈正行、五代実、近藤文平、小宮山寛、島田政次、島田良吉、白井長五郎、角田二郎、鶴岡正幸、三須重政、西村瑛二、野村和、山口信一、渡辺秀雄等が参加し、本県審判技術の発展に寄与した。」

また、元会長の著作「六勝六敗」には、次のような昭和27年5月25日付けの朝日新聞の記事（抜粋）が掲載されており、奥様と元会長のお人柄がよくわかるエピソードとなっています。「千葉県松尾町で農業を営む元早大陸上競技部主将（ハンマー投）朝比奈正行氏（34歳）が同町松尾小学校で“グランド結婚式”を挙げる。新婦は女子大卒の太田文子さん（30歳）、新郎新婦手に手をとって50メートルコースを走りゴールラインをそのまま新たな人生の出発点にしようというプラン。テープは仲人役の織田幹雄夫妻が持ち、酒盛りなどは一切抜き、節約した金で“朝比奈杯”を作って地元の中高生に寄贈。永く二人の結婚を祝福してもらおうという。」

私も平成16年まで理事長として元会長とともに協会運営に携わり、公私にわたり大変お世話になりました。前年の同15年、私の秩父宮章受章式には元会長にもお越しいただき、忘れられない思い出となっております。

御逝去は大変残念ですが、晩年とてもお元気に過ごされ御長寿を全うされました。著書「六勝六敗」のあとがきに「今日は終わっても、明日が必ずあると信じて過ごしてきた日々は、本当に無駄ではなかった」と記されており、コロナ禍がなかなか落ち着かない毎日ですが、皆様も元会長のこの言葉を道標にお元気に毎日を過ごされますようお願いしております。

陸上部紹介

「松戸市立常盤平中学校」

松戸市立常盤平中学校陸上競技部は、「夢の実現」を合言葉に日々成長し続けています。

今年度は「夢の実現」～俺たちは強い～をスローガンに掲げ、選手一人一人が自分を信じ、仲間を信じ、日々の練習、大会に取り組んできました。

千葉県総合体育大会において、男子200m優勝、男子1500m優勝、女子800m優勝を果たし、初の男女総合優勝を獲得しました。関東大会では3名の選手が入賞し、全国大会でも男子200mで第6位入賞を果たしました。更に、千葉県中学校駅伝大会でも男女ともに初優勝を果たし、関東駅伝大会では男女ともに準優勝、初の全国駅伝大会では男子第5位、女子第19位という結果でした。これから確立した常盤平メソッドでさらなる高みを目指して頑張ります。

このように結果を残せたのも、部活動の基本理念として「上級生が積極的に行動し、下級生はのびのびと練習を行う」としています。入部間もない下級生はとにかく練習に集中し、力をつける、先輩から多くのことを学べるよう、挨拶や練習の準備、片付けは全て上級生から動くようにしています。そうすることでチーム内の風通しはよくなり、とても仲の良いチームとなりました。

これからも「日本一仲が良く、笑顔が似合い、早くて強いチーム」を体現し、陸上競技・駅伝の楽しさ、魅力を発信していけるチームを目指していきます。



「県立千葉東高等学校」

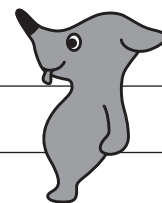
本校は昭和16年4月に千葉市立千葉高等女学校として開校し、同23年に新制の女子高等学校に、同25年に県に移管され県立千葉第三高等学校として共学の学校に変わりました。そして同36年4月に千葉東高等学校に改称され現在に至っています。令和2年4月に創立80年目を迎え、生徒は勉学・学校行事、そして部活動においても全力で取り組んでいます。

陸上競技部は現在男子30名、女子32名の62名が所属しており日々練習に励んでいます。創立時が女子高のためかグラウンドが狭く、活動するスペースの確保が難しいため学校の理解を得て毎日県総合スポーツセンターの第2陸上競技場を借りて練習しています。7限目の授業後に急いで移動しますが閉場する17時までは数十分しか練習時間が取れません。それでも毎日オールウェザートラックで練習出来ることはトレーニングの効果としてはかなり高く、また、時間が長く取れないことは身体への負担が大きいオールウェザーでも怪我のリスクが下げられるという一面もあり、競技会での結果も十分に残せています。限られた環境と限られた時間をいかに有効に使うかという工夫は、部活動の活動意義にもつ



ながり、生徒が成長するための一助ともなっています。ここ12年間での主な成績はインターハイでは優勝1回・2位1回・3位2回、U18日本選手権優勝2回、U20日本選手権入賞1回、国体での入賞2回となっています。入賞こそなかったインターハイの出場も2つあり、関東大会の出場は多数と、より高みを目指して活動しています。現在新型コロナウイルス感染症の増加で部活動はかなりの制限を受けていますが、後ろ向きになることもなく、ただひたすらに努力することだけを考え前向きに頑張っています。

※部活動紹介コーナーに登場してくれる部活動を募集しています。我こそはと思う部活動の方は千葉陸協までご連絡ください。



団体紹介 市川市陸上競技協会

市川市陸上競技協会は、戦後、国府台高校の体育教師であった黒羽義治氏が高校及び大柏、国分等の青年団員に陸上競技の指導にあたり、昭和23年4月に秋元重一郎氏、黒羽義治氏が中心となって協会を設立し、昭和28年には、旧陸軍練兵場跡地に「市川市陸上競技場」が建設され、昭和36年8月には、第13回関東八都県陸上競技大会会場として使用、当該施設から、当時100m競走日本記録保持者の石沢隆夫氏、競歩競技の第一人者の佐藤武男氏等多くの国体選手が誕生しています。

近年、世の中の働き方改革が進み、学校教育においても土曜日を週休日とする流れが進み当協会では、平成8年度より子どもたちの余暇の有効活用を図るため陸上競技教室（現：市民スポーツ教室）を開催し、小・中・高校生を対象に陸上競技の底上げを目的に開催している他、協会設立当初から目指している陸上競技の健全な普及と、競技力の向上のための事業として市川市陸上競技選手権大会、市川市民体育大会、市民駅伝競走大会、講習会や練習会等を開催しています。また、市川市、市川市スポーツ協会と、市川市民マラソン大会（旧：市川市民元旦マラソン大会）事業を実施しています。

協会では3つの専門部（総務部・強化対策部・審判規則部）を置き、組織的な活動を行い、目的達成のためには、選手の育成が欠かせないことから、平成12年に市川陸協Jr.クラブを立ち上げ、中学生を中心に底辺の拡大と競技力の向上を図ってまいりました。その結果、高校、大学、社会人として陸上競技を続けていく選手が徐々に増え、県民体育大会では、市川市の代表選手としてまた、市民大会等の大会では審判等として協力してくれる人材も増えているところです。

選手の育成については、競技種目によって偏りはありますが、走る・跳ぶ・投げる、を基本に小学生から中学生、高校生と選手が意欲をもって取り組める環境、すなわち時間や場所、指導者を用意しながら支援することが必要であると考えています。指導者については専門的な指導力を有する競技経験者の確保が課題ですが、過去に育成をした選手や、協会の考え方に賛同し、公認審判資格をさせていただいている市内の中学校、高等学校の教員の方に協力を仰ぎながら、陸上競技の発展に寄与できる体制が徐々に整いつつあります。

現在、創設当初から開催していた「市川市民元旦マラソン大会」が、諸般の事情により元旦以外の日に「市川市民マラソン大会」として開催することになりましたが、元旦から日程が変わろうとも今後も継続して実施していく計画であります。

今後も、市民スポーツ教室を充実させ小中学生の育成に努めていくとともに、市民体育大会、市民駅伝競走大会を開催し競技力向上を図ってまいります。

昨今、新型コロナウイルスの影響により、様々な大会が余儀なく中止・縮小されておりますが、このような状況の中でも知恵を絞りながら、選手の活躍できる場を提供していくことが、協会の使命であると考えています。



市民元旦マラソン大会（市民マラソン大会）



市民元旦マラソン大会（市民マラソン大会）



陸上競技教室（市民スポーツ教室）小学生の練習



陸上競技教室（市民スポーツ教室）短距離



記録室 国際大会入賞者・国内大会優勝者・駅伝結果



男子第72回全国高等学校駅伝競走大会
女子第33回全国高等学校駅伝競走大会
(R3.12.26 京都)

男子 八千代松陰高等学校 11位 2:05:11
女子 柏日体高等学校 20位 1:11:53

第40回全国都道府県対抗女子競走駅伝
(R4.1.16 京都)

千葉県チーム 12位 2:19:09

【栄章贈与者の紹介】

〔令和2年度日本陸上競技連盟栄章〕

秩父宮章	高津 乙郎	千葉県陸上競技協会副会長
高校優秀指導者章	太田 正樹	船橋二和高等学校教諭
中学優秀指導者章	柴田 哲享	四街道市立四街道西中学校教諭
高校優秀選手章	石井 優吉	八千代松陰高等学校
中学優秀選手章	藤井 清雅	君津市立君津中学校
安藤百福記念章	岩城 節臣	千葉県陸上競技協会強化委員会普及育成部

〔令和3年度千葉県スポーツ協会栄章〕

功労章
岩脇 充司 千葉県陸上競技協会総務委員会副委員長

〔千葉県陸上競技協会栄章〕

令和3年度功労章
金網 哲 千葉県陸上競技協会審判員
伊藤 定義 千葉県陸上競技協会審判員
佐藤 孝行 千葉県陸上競技協会総務委員会委員
・競技運営委員会委員

令和3年度勲功章
石井 優吉 八千代松陰高等学校
坂東 悠汰 富士通
小澤 優太 A T C
根岸 紀仁 A T C
大久保 公彦 A T C
相山 慶太郎 A T C
牧野 友哉 四街道西中学校

令和2年度千葉県最高記録章

坂東 悠汰 富士通 男子 5000m 13.14.59
高橋 英輝 富士通 男子 10000mW 37.25.21

令和2年度千葉県高校記録章

藤田 真美加 成田高等学校
女子 5000mW 22.56.26

〔令和3年度関東陸上競技協会感謝状〕

富澤 憲一 千葉県陸上競技協会審判員
名須川 豊 千葉県陸上競技協会審判員
根本 義幸 千葉県陸上競技協会審判員

おしらせ

発行 一般財団法人 千葉県陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町 323

千葉県総合スポーツセンター

ちばアクアラインマラソン実行委員会事務局 分室内

TEL : 043-252-7311 FAX : 043-252-7314

<http://www.jaaf-chiba.jp/>